フィロソフィー

当社は社是に「人間性尊重」を掲げて、従業員がいきいきと働ける環境と、一人ひとりが成長し活躍できる企業風土を大切にしています。引き続き、変革期が続く自動車業界にあって価値あるサプライヤーとして勝ち残るために、俊敏かつ果敢に挑戦し成長する「レジリエントな企業」として、スピード感をもって事業モデルの転換と経営改革に取り組みます。

社名の由来

「G」 Global & Genba
「TE」 Technology
「KT」 Kikuchi & Takao

経営理念

社是

- 人間性尊重
- 技術革新
- 堅実経営

行動指針

愛情と相互信頼をモットーに**自己啓発**に努めよう
先進技術を追求し**良質廉価**な製品を提供しよう
自主性をもち英知と機敏さで社会に貢献しよう

ビジョン

Shape the Future

情熱と**革新**を融合させ
人とクルマと地球の
より良い**未来**をかたちづくる

サステナビリティ基本方針

ジーテクトの目指す、
人とクルマと地球のより良い未来のために
事業活動を通じた持続可能な社会の実現と
企業価値の向上に努めます



成長の軌跡とDNA

自動車メーカーの開発パートナーとして国内外各地に拡大

1950～

1952年6月
●大阪市東成区に高尾金属工業株式会社を設立
●ダイハツ工業株式会社と取引



1953年11月
●東京都三鷹市に菊池ボデー工業有限会社を設立
●プリンス自動車工業株式会社(後の日産自動車株式会社)と取引
1954年7月
●富士重工業株式会社(現:株式会社SUBARU)と取引開始



50年代
●サンフランシスコ平和条約締結
●家電「三種の神器」の普及

1960～

1966年11月
●滋賀県甲賀郡土山町に滋賀工場建設
1967年9月
●本田技研工業株式会社と取引開始

1963年3月
●菊池プレス工業株式会社に改名
1964年5月
●本田技研工業株式会社と取引開始
1969年1月
●東京都西多摩郡羽村町(現:東京都羽村市)に羽村工場を新設し、操業を開始

60年代
●東京オリンピック開催
●マイカーブームの到来

1970～

1971年11月
●本社所在地を滋賀県甲賀郡土山町に移転

1973年3月
●羽村工場にプレス棟完成。一貫生産の主力工場となる



70年代
●オイルショック
●排ガス規制

1980～

1982年5月
●滋賀工場敷地内に特機工場完成

1984年5月
●アメリカ・オハイオ州にAmerican Honda Motorと菊池・高尾、他2社合弁でK・T・H Parts Industries, Inc.を設立
1988年5月
●アメリカ・オハイオ州にAmerican Honda Motorと菊池・高尾合弁でJefferson Industries, Inc.を設立

80年代
●プラザ合意
●消費税導入

1990～

1991年4月
●栃木県塩谷郡高根沢町にタカオC&C(現:C&C栃木)を新設
1994年10月
●タイ・アユタヤ県にTakao (Thailand) Co., Ltd.(現:G-TEKT (Thailand) Co., Ltd.)を設立
1996年5月
●タイ・ラヨン県にTakao Eastern Co., Ltd.(現:G-TEKT Eastern Co., Ltd.)を設立
1997年1月
●イギリス・グロスター州にStadoco Takao Europeを設立

1990年4月
●栃木県塩谷郡喜連川町(現:栃木県さくら市)にテクニカルセンターおよび栃木工場を新設
1996年4月、12月
●日本証券業協会に株式を店頭登録(4月)
●ブラジル・サンパウロ州にHonda Motor do Brasil Ltda.との2社合弁でKP do Brasil Ltda.を設立(12月)
1998年7月
●アメリカ・インディアナ州にAustin Tri-Hawk Automotive, Inc.を設立
●Subaru-Isuzu Automotive, Inc.(SIA)へ納入開始

1996年10月
●カナダ・オンタリオ州にJefferson Elora Corporationを設立

90年代
●バブル崩壊
●インターネットの普及

2000～

2000年2月
●Stadoco Takao Europeを Takao Europe Manufacturingに改名(現:G-TEKT Europe Manufacturing Ltd.)
2004年5月
●タイ・ラヨン県にThai G&B Manufacturing Ltd.を設立
2006年7月
●イギリス・ウェールズにTakao Europe Manufacturing第二工場を新設

2002年6月、7月
●群馬県太田市に群馬工場を新設(6月)
●東京都羽村市に本店を移転(7月)
2005年9月
●中国広東省広州化市(現:広州市従化区)にConghua K&S Auto Parts Co., Ltd.(現Conghua Auto Parts Alliance (China) Ltd.)を設立
2009年9月
●埼玉県深谷市に埼玉工場を新設

2000年7月
●アメリカ・ジョージア州にJefferson Southern Corporationを設立
2001年10月
●中国広東省広州市にAuto Parts Alliance (China) Ltd.を設立
2005年3月
●中国湖北省武漢市にWuhan Auto Parts Alliance Co., Ltd.を設立
2007年2月
●インド・ラジャスタン州にGlobal Auto-Parts Alliance India Private Ltd.(GAPAI社)を設立(現在は閉鎖)

2000年代
●リーマンショック
●スマートフォンの登場

2011年4月 ジーテクト発足

□ 高尾金属工業　□ 菊池プレス工業　□ 高尾金属工業と菊池プレス工業の合弁事業　□ 時事的な出来事

成長の軌跡とDNA

ジーテクトの成長は、情熱と革新の融合にあり

2011年4月
ジーテクト発足
リーマンショックに端を発する自動車業界の環境激変により、コスト競争、グローバル調達に対応した生産体制への移行、世界規模での安全・環境対応技術の開発など、顧客ニーズは高度化しました。これに応えるため、事業基盤の拡大・強化を目的として、菊池プレス工業と高尾金属工業が合併し、ジーテクトが誕生しました。

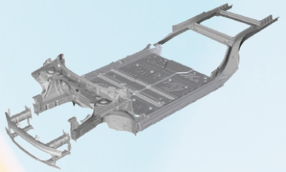
2014年12月
東証一部上場
東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)から東京証券取引所市場第一部に市場変更。より多くの投資家の皆様に株式を保有いただける環境を整え、資本市場との対話を本格化させました。



2018年3月
GTL新設
東京都羽村市にG-TEKT TOKYO LAB(GTL)を新設。未来のクルマを形にするために解析・試験機能を集約し、開発業務の中核としての役割を担っています。

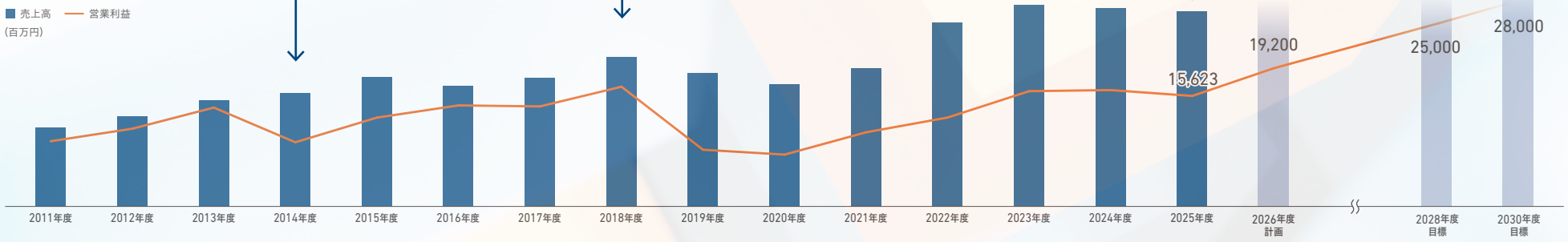


2022年
車体一台開発本格化
車体領域は、自動車の進化や多様化に伴って構造や機能に変化が求められます。部品単体ではなく、車体一台全体で機能性・経済性を両立した提案ができるよう、開発体制を本格化させました。



2026年3月
設立15周年記念イベント
これまでの事業活動に多大なるご協力をいただいたお取引先の方々をお招きして感謝をお伝えするとともに、お取引先様と当社の更なる発展を願い記念式典を行いました。





2011年11月
●インド・ラジャスタン州にG-TEKT India Private Ltd.を設立
2012年2月
●インドネシア・西ジャワ州にPT. G-TEKT Indonesia Manufacturingを設立
2013年4月
●アメリカ・オハイオ州にリサーチ拠点G-TEKT North America Corporationを設立(現在はミシガン州へ移転)
2013年9月
●メキシコ・グアナファト州にG-TEKT MEXICO CORP. S.A. DE C.V.を設立
2015年6月
●ドイツ・バイエルン州にリサーチ拠点G-TEKT (Deutschland) GmbH.を設立
2017年10月
●中国・上海市にリサーチ拠点G-TEKT Shanghai Representative Officeを設立(現在は閉所)
2017年11月
●スロバキア・ニトラ市にG-TEKT Slovakia, s.r.o.を設立
2018年3月
●東京都羽村市にジーテクト東京ラボ(G-TEKT TOKYO LAB)を新設
2021年12月
●東京都羽村市にジーテクト品質保証センターを新設
2025年2月
●中国・広州市に南沙工場を新設
2025年3月
●岐阜県・海津市に中部工場を新設

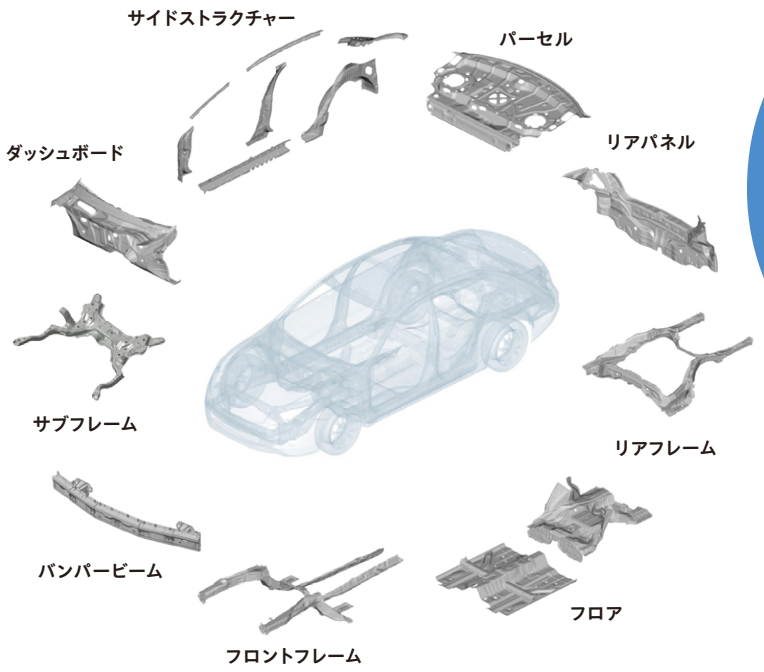
現状の製品ポートフォリオと方向性

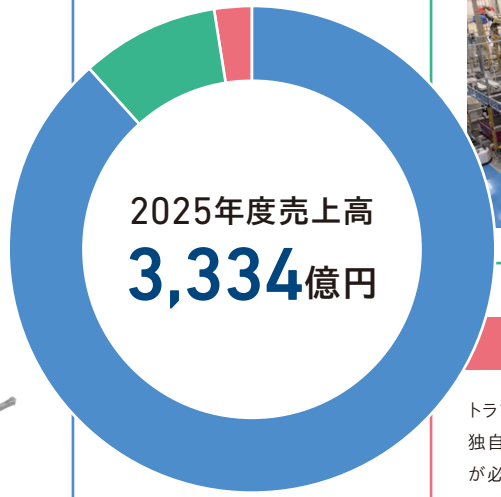
当社は、車体部品を中心に事業を展開しています。売上高の約9割を占める車体部品事業に加え、トランスミッション部品事業や車種開発事業を手がけ、自動車産業の発展に貢献しています。以下では、それぞれの事業の特長と強みについてご紹介します。

車体部品

売上高構成比 88.6%

車体部品は自動車の骨格を形成する重要部品として、安全性能や軽量化に貢献するとともに、長年培ってきたプレス加工技術、金型技術、量産技術を強みに事業を展開しています。近年は、部品単体の供給にとどまらず、自動車開発の上流から参画し、お客様の求める車体構造の提案や生産上の課題解決への取り組みを通じて自動車づくりを支えています。



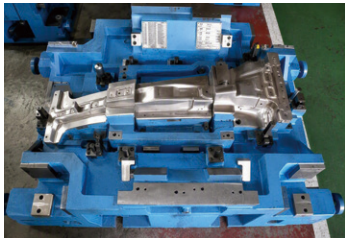


車種開発

車種開発関連では、車体部品の新機種立ち上げに必要なプレス金型の設計・製作を担い、国内外の生産拠点における量産準備を支えています。さらに、自社量産設備で培った溶接・組立ノウハウを活かし、ロボットシステムや組立装置の提供にも取り組むことで、金型から生産設備まで一貫して製品づくりを支える体制を構築しています。

売上高構成比 9.1%





トランスミッション部品

トランスミッション部品は、駆動系の機能を支える高精度部品です。当社は、独自の増肉加工や転造加工などの精密プレス技術を活かし、従来は切削が必要であった高精度・高難度な形状のプレス成形に取り組んでいます。切削部位の最小化や加工硬化による部品強度の向上など、培ってきた技術とノウハウにより、開発から量産までお客様のニーズに応えています。

売上高構成比 2.3%



ジーテクトの経営資本

事業活動の源泉である6つの資本は、ジーテクトの企業活動を通じて活用・強化され、新たな価値を創出します。そして創出された価値は、再び各資本への投資や蓄積につながり、更なる価値創造を支える好循環を生み出します。当社は、持続的な企業価値向上を支える経営資本を以下のように捉えています。

資本	当社にとっての意味	領域	目指す成果	指標
財務資本	12か国のグローバル拠点を支え、 成長投資と株主還元を両立させる資金基盤	成長投資・研究開発・人材／DX投資 への配分と株主還元	創出資金を人的・知的・製造資本へ再配分し、 資本効率を高めながら企業価値を高める	ROE、DOE、自己資本比率
人的資本	開発・生産・現場改善・新規事業など、 経営戦略を実行する原動力	DX人材確保、エンゲージメント向上、 Tier0.5人材育成、新規事業創出	人材の専門性とエンゲージメント向上に取り組みつつ、 知的資本の創出と製造資本の高度化を牽引する	DX人材比率、自己都合離職率、エンゲージメント指標、 戦略人材採用、後継者育成
製造資本	世界28工場での生産体制・量産技術	生産体質変革、無人化・省人化、スマートファクトリー	生産性と品質を高め、更なる安定供給と コスト競争力を実現し、収益力向上を通じて 財務資本の再創出につなげる	設備投資額、既存工場の生産体質変革の進捗
知的資本	「車一台解析」に代表される開発力	電動化・部品の大型一体化ニーズへの対応、 Tier0.5への進化	自動車の開発初期から参画し最適な車体を提案。 製造資本を通じて収益力に転換する	研究開発費、特許件数
自然資本	事業と製品を支える環境・資源基盤	脱炭素、再生可能エネルギー活用	環境負荷を低減しつつ、軽量化技術等の知的資本と 結びつけることで脱炭素社会での事業機会につなげる	Scope1,2,3CO_2排出量、再エネ比率、CDP格付け
社会・関係資本	ステークホルダーとの信頼に基づく事業基盤	自動車メーカーや材料メーカーとの共創、 大学研究機関との共同研究	外部との共創で新たな技術や発想を獲得し、 知的資本を強化する。自動車メーカーとの 取引継続・拡大が財務資本の安定にも寄与する	外部との共創によって生まれた製品や技術